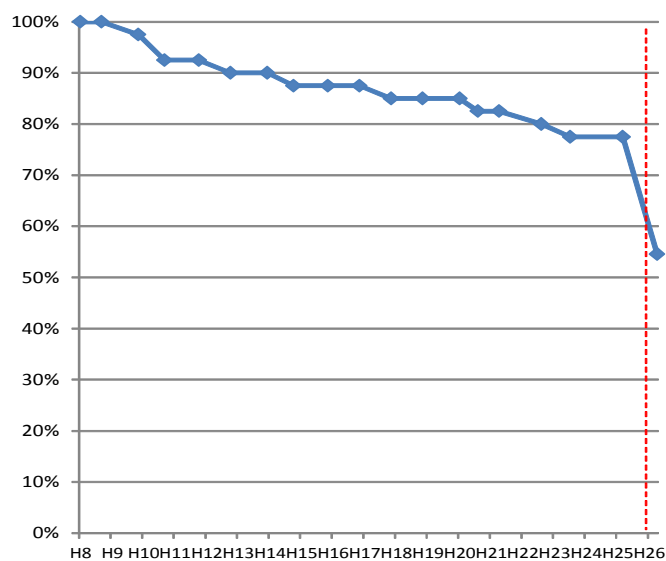


樹種名	ミズナラ（別名：オオナラ）	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Quercus crispula</i>	
分 布	コナラやクヌギより寒冷的な気候を好み、鹿児島県高隈山を南限に、北は北海道から樺太・南千島まで分布する。	
樹木特性	陽樹であり、ブナとともに自然林を形成し、やや乾いた場所では二次林の主要な樹種となる。伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 20 cm 前後で萌芽本数は 30 本以上である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 30~40 cm である。	
用 途	建築・家具・器具材、しいたけ原木として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	152 本／0.05ha (3,000 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 ミズナラ（水楡）は、ブナ科コナラ属の落葉広葉樹。ブナと並んで落葉広葉樹林の主要樹種の一つである。ブナに比べると、やや明るい場所を好む。樹高は、大きなものでは 35 m に達する。葉はつやのない緑で、コナラよりももっと波打つような鋸歯（輪郭のギザギザ）がある。 5 月から 6 月に長さ 5cm ほどの花を咲かせ、秋には実（ドングリ）が熟す。ミズナラのドングリはタンニンを含み、そのままでは渋くて食べられないが、灰汁抜き（あくぬき）すれば食用になる。 心材はくすんだ褐色。加工性・着色性に優れ強度が大きく、重厚感がある。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生しているが、枯死に至るものは少なかった。また、当試験地はミズナラの生育には厳しい環境（高温）であると考えられたが、生育状況は良好である。	
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ：46 本、カミキリムシ類：28 本)	

ミズナラ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。

林内の照度調整を図るため平成 20 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 54.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

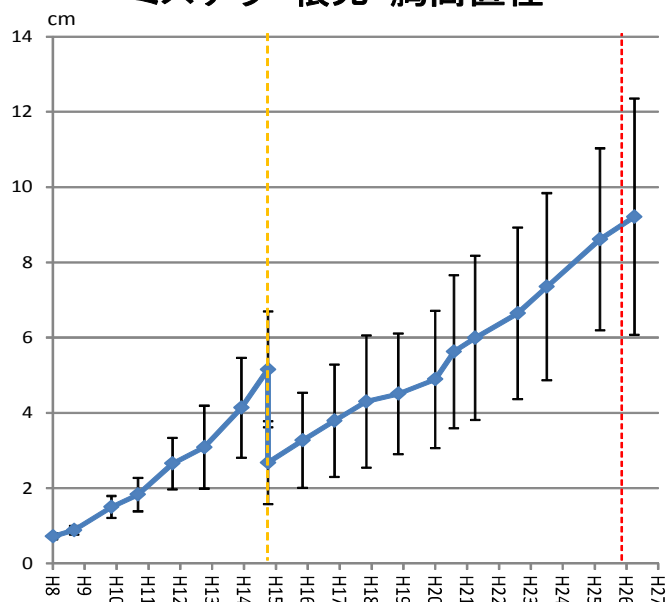
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 9.21 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ミズナラ 根元・胸高直径



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 6.99m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ミズナラ 樹高

